

## 日本テコンドー協会

# 第1回J T A組手選抜者合宿風景

2018年3月29～31日、神奈川県箱根において第1回J T A組手選抜者合宿が実施されました。日本テコンドー協会独自の組手技術発展＝蹴美力の向上を目指し、選抜された少年少女部の選手が一同に介し、目で見、肌で感じ、声で確認し、何度も何度も、繰り返し繰り返し、反復継続しながら、蹴美力の基礎を脳と体にたたき込みました。



参加者は次の通り。

指導者 河 明生宗師範、小川浩平正指導員、趙 哲来正指導員  
選抜者 福島良菜と斉藤未有（高1）、福島宏青と森 慎治（中2。福岡筑紫野TC）  
辻 陽介（愛知大府TCクラブ長）、伊藤岳陽（高3。名古屋天白TC）  
笹岡コウ太（小5。高知香南TC）および保護者  
武田龍倭と中道洸太（中1）、加藤瑛太郎（小6）、稲垣海翔（小5。東京城南雑色TC）  
高橋英秀（小5。川崎TC）



組手稽古前の柔軟体操時、身体をならすため号令有の蹴武の型を行ったところ、あまりにもうまいため

河宗師範が感心し、急きょ動画撮影を決めました。

蹴武の型の義家、清衡、謙信、武蔵、龍馬を漸次撮影しましたが一度もリハーサルをしていません。日本テコンドー協会本部 HP に公開されている動画を見てください。

はじめて団体で蹴武の型を演武しているとは思えない程、よくまとまっております。

これは彼ら自身の脳や身体に蹴武の型が「涵養」されているからです。

彼らが所属するクラブ指導者（武田敬之師範、稲熊肇三段、朝比奈浩一三段、福島成勇二段、守田典男二段）が、日頃から蹴武の型を正しく指導している賜と言えます。



合宿参加者は、宿泊所では、交流を深めました。

将来、彼らの中から、全日本フルコンタクトテコンドー選手権大会 A 級王者が輩出されるでしょう。いわばライバルですが「敵」ではありません。

同門としての連帯感や友情を築きながらも、大会ではルールにもとづき正々堂々と競技し、勝っても驕らず、負けても自分を負かした相手を称えるさわやかで心の広い度量を涵養する、これこそが日本テコンドー協会が目指す「自分を高める武道」の神髄です。



合宿前後、遠方から参加した少年少女部中、  
 全日本フルコンタクトテコンドー選手権大会等で優秀な成績を収めた門人は、  
 河宗師範がさらに選抜し、  
 富士山、葉山、江ノ島、横浜山の手の築100年の洋館等を案内し、  
 歴史等を教えることにより、日本テコンドー協会有段者として求められる教養を高めとともに、  
 より一層、全日本フルコンタクトテコンドー選手権大会で活躍するよう激励しました。  
 九州からの参加者は、はじめて見る富士山に感動しておりました。



